

# 風土記の丘の花だより<sup>169</sup>

今、そしてこれから見られる植物(2023年1月22日)

大寒も過ぎ、一年で一番寒い季節になりました。これから節分まで、真冬の寒さが続くことでしょう。そんな中でも、花を咲かせている植物があります。見つけるとほんわかとした暖かさを感じますね。梅園の紅梅がきれいですが、少し遅れて白梅も咲



いてきました。写真は万葉植物園で撮ったウメです。花数が少なく、まだまだ辺りに香りが漂うまでではありませんが、「春されば まづ咲くやどの 梅の花・・・」という山上憶良の歌が思い浮かびました。ウメはバラ科の植物で、中国原産とされています。古来より人に愛され、様々な品種が作られました。



昨年末からツバキも咲いています。写真はヤブツバキと呼ばれる元々のツバキです。ツバキもウメ同様、様々な改良がなされ、多くの品種が作られています。白いツバキも咲いています。探してみてください。真っ白ではなく、近づいて見ると薄いピンク色の縞が入っていました。新池の周りには色々な品種のツバキが植えられています。咲いたら、一回りしながら観察してみてください。



ひときわ赤い若枝を伸ばしている木があります。ネジキです。初夏には透き通るような白い花をたくさん咲かせましたが、この季節は若枝が目立ちます。昔、盆栽好きのおじいさんが「赤芽・あかめ」と呼んでいたのを覚えています。今でも盆栽界ではそう呼ぶのでしょうか。幹の樹皮が振れているように見えるので、この名前です。



スイセンの花もたくさん咲いてきました。写真はいわゆる標準的なニホンスイセンと呼ばれるものです。白くて中が黄色です。この花もいろいろな園芸品種が作られ、園芸カタログを見ると「ええ、これでもスイセン?」と言いたくなるような色、形のものまで出ています。ここにもいくつかの品種が植えられていますが、私は、これが好きです。 松下